



あ

や

け

あ

2018 SEP
No.9

摂南大学広報誌

特集

- 初年次教育プログラムスタート! …… P.04
- SETSUNAN GIRLS PRESS (SGP) 紹介 …… P.14

学長挨拶



学長 八木 紀一郎
Yagi Kiichiro

来春から本学には21世紀生まれの学生が入学します。本学が創立50周年を迎える2025年には、学部生から大学院生のもとどが21世紀人によって占められているでしょう。20世紀の常識は通用しません。社会は、そして大学はどう変わっていくのでしょうか。

技術の進歩、特に情報化の進展は恐ろしいばかりです。インターネットは「グローバル・ブレイン」(世界に広がった頭脳)と言われましたが、いまや人の頭脳を結び付けているだけではありません。人を介しない装置同士

2040年に向かう日本の大学

の通信・調整(IoT)とビッグデータを処理できる人工知能(AI)の発展によって、社会全体を覆うようなサイバー空間が生まれようとしています。他方で、これまで人々の生活を支えてきた家庭と地域社会は、その縮小と解体が進み、人々は教育(保育)・医療・保健(介護)などの公的領域から、娯楽・飲食・観光などの私的領域に至るまで、発展した社会インフラとサービス産業に頼らずには生きていけません。情報空間と社会制度を組み合わせた新しい社会が生まれ始めているといつてよいでしょう。実は、これからの時代は大学にとって試練の時代です。将来の日本の大学について考えている人たちは2040年を目標としてその検討を行っています。試練は、量と質の双方にあります。

量の方でいえば、この年の18歳人口は88万人で、今年と比べても30万人近く少なくなります。学生を集められず維持できなくなる大学が続出しかねません。学生たちへの経済的支援も充実させなければなりません。

中央教育審議会でも、十分な高等教育を受ける機会を保障するため、大学の規模や配置をも考慮した検討が始まっています。質の面では、新しい社会で生きる人たちのための知識と能力を現在の教育体制のままで提供できるかが問われます。急速に変化する時代の中では、丸暗記型の知識はすぐに使い物にならなくなっています。変化に対応可能で、他分野にも通じる普遍的な基礎知識と技能を獲得させなければなりません。また世代・性別・民族・宗教・身体的能力・経歴など多様な個人的背景を認め合いながら協働することが必要になります。

明らかなことは、これまでさまざまな形で取り組まれてきた教育改善に加えて、学部・学科、個々の大学等の組織を超えて、教育資源を活用する方向での発展が起こるだろうということです。すでにさまざまな形で、サイバー空間の中での交流・実習や教材の利用も進むことでしょう。しかし、人格的な自立性を養わなければ、「グローバル・ブレイン」に飲み込まれるだけです。

突然ですがここで福沢諭吉の『学問のすすめ』を参照させてください。福沢はその第5編で、「学校と云い、工業と云い……皆是れ文明の形のみ」と断言します。この形の背後に、「文明の精神」といふべき「無形の一物」がなければ、学校など何の役にも立ちません。それは何かと問いつけた福沢は、「人民独立の気力、即ち是なり」と答えています。これは、本学が教育の理念に掲げる「人間力」「実践力」「統合力」と同じものです。新しい社会のもとでも、この基本は変わりません。本学も、新しい時代の中でも、自立した人格が生涯にわたって自らの可能性を追求するという「文明の精神」を支える存在でありたいと願っています。



index

本学では、新しい価値を創造できる主体性の高いゼミ活動を特色としています。例えば、街に出掛け、地域を活性化させる企画を学生主体で考え実施する。成功や失敗、さまざまな体験からマーケティングに大切な考え方を身につけます。
■テーマ:地域活性化とマーケティング/経営情報学科

学長挨拶	02
摂南大学の特色ある取り組み	
交流事業	03
初年次教育プログラム	04
環境保全	06
学生生活	07
学部 Topics	
法学部・外国語学部	09
経済学部 経営学部	10
理工学部	11
薬学部・看護学部	12
情報教育支援・研究支援	13
特集	
SETSUNAN GIRLS PRESS (SGP) 紹介	14
ALL摂南大学 Day	16
入試インフォメーション	17
後援会	18
奨学金・学費減免ほか	19



摂南大学の特色ある取り組み

交流事業

地域交流

和歌山県

「大学のふるさと」活動

Exchange Program

「あがら」が
「すさみ町」の夏を盛り上げて9年目
お盆の伝統行事継承や
子どもたちの
自然体験キャンプを実施

※和歌山弁で「私たち」

本学では、紀伊半島の南端近くに位置する和歌山県すさみ町の活性化に貢献するため、廃校になった山間部の佐本小学校を拠点として和歌山県「大学のふるさと」活動を展開しています。

すさみ町とは8年前に連携協定を締結、年間を通して多くの学生が町内を訪問し活動しています。「高齢者お宅訪問活動や」なんでもやる隊活動」を継続しながら、地域の人々を元気づけ、学生の探究心や積極性が高められています。このような活動を経て、現在すさみ町役場職員として活躍中の卒業生もいます。本学のタグライン「Smart and Human」に込められた「人と人との絆」を大切にしたい長期にわたる学生と住民との温かな交流から互いの信頼や絆が生まれています。

9年目となる今年の夏も、8月14日から4日間、「自然体験」忍者キャンプ」を開催し、

町役場のバスに乗り換え佐本小学校着、夏活動開始!



子どもたちもカレー作りに挑戦、料理担当学生に感謝!



学生が継承する「佐本川柱松」、役場職員となった先輩卒業生も協力



子どもたちから「来年も来ます! ありがとう!」の声が



ビルフィッシュ支援
5月にはテレビ和歌山が活動を取材・放映



すさみ町では、こんな活動も展開しています!

2月、3月の佐本地域でのお宅訪問活動
5月のイノブータン王国建国祭運営支援や
ニクニク栽培支援活動、7月のビルフィッシュングトーナメント運営支援など、年間を通じて休日を活用した活動を継続しています。
10月の摂大祭に出店する同町の模擬店販売には学生たちも協力します。ぜひお立ち寄りください。

佐本地域での高齢者お宅訪問活動とイノブータン王国建国祭支援



『摂南オンラインワン教育』 新しい初年次教育プログラムを スタートしました！

オンラインワンの教育プログラム

本学では、2018年度から
新たな初年次教育プログラムをスタートしました。
本プログラムとして、
「学修キックオフ・セミナー」
「大学教養入門」の2つを実施しました。

学修キックオフ・セミナー

「学修キックオフ・セミナー」は、4月4日に
実施したアクティブ・ラーニング入学宣誓式
に引き続き、4月5〜7日の3日間にわ
たって行いました。大学に入学したばかりの
新入生に対し、

- ① 大学での学びに備えて、学び方を学ぶ
(learn how to learn)
 - ② 学部・学科の垣根を越えた
チーム・ビルディングを図る
 - ③ 基礎的なジェネリックスキルを
身につける
 - ④ 協働学習を体験する
- の4つを目的として掲げ、在学生41人がファ
シリテーター（進行役）、教員21人が補助役と
なり実施しました。



チーム・ビルディングの重要性を学ぶ

セミナーは、友人作りを兼ねたマッチングゲームなど
のアイスブレイクをはじめ、グループに分かれて学生
同士でインタビューを行うなど、お互いを知り、さまざ
まな価値観や考え方をを持った仲間とコミュニケーションを
取ることからスタート。初めて顔を合わせて緊張気味
だった新入生の表情が徐々に明るくなり、積極的に
グループの仲間に笑顔でインタビューをする姿が目立つ
ようになりました。

このほか、グループメンバーのお互いの持ち味を知る
ためのワークや、それぞれのメンバーの長所を話し
合い、自己理解を深めるディスカッションも実施。新入生
は学部・学科の垣根を越えたチーム・ビルディングの
重要性を学びました。

「これって
あなたの秘密ですか？」
マッチングゲームを
楽しむ新入生



ファシリテーターの学生にも成果

ファシリテーターの学生は、ファシリテーションの
ための研修を受講し、2カ月にわたり何度も練習を
重ね本番に備えました。新入生を指導することで
自らのプレゼンテーション能力やファシリテーショ
ンスキルを身につけることができ、ファシリテーター
を務めた濱瀬剛さん（経営情報学科3年次）は「春
休みの期間に練習を重ねてこのセミナーに臨み
ました。このセミナーを通して、互いに摂大で
成長できればと思います」と話しました。

ファシリテーターの
先輩学生が
新入生をリード

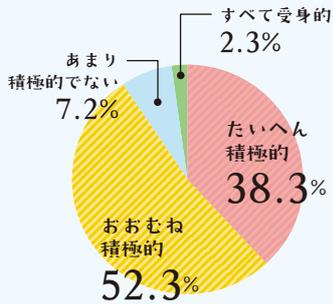




学修キックオフ・セミナー アンケート集計結果

設問1

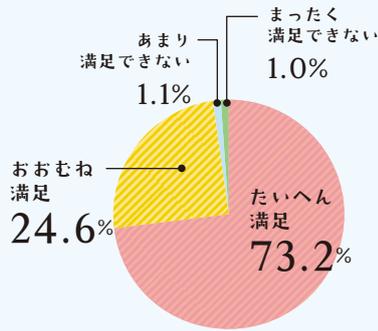
あなたは、今日のセミナーに積極的に取り組みましたか。



肯定回答率: 90.6%

設問2

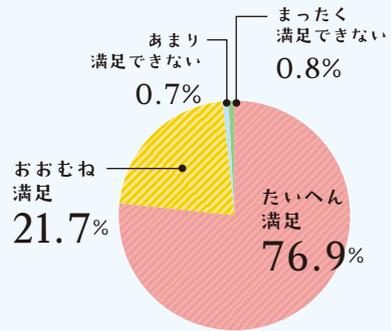
あなたは、今日のセミナーに満足しましたか。



肯定回答率: 97.8%

設問3

あなたは、ファシリテーター(学生スタッフ)のはたらきに満足しましたか。



肯定回答率: 98.6%



ラーニング・サポート・チーム (LST)

本学教育イノベーションセンターに、
教職員と協働して学修をサポートする学生スタッフ組織としてラーニング・サポート・チーム(LST)があります。
学生と教職員が協働する「学生のための教育改革」を推進します。



大学教養入門

学修キックオフ・セミナーに引き続いて、1年次前期配当科目として「大学教養入門」を開講(水曜日3・4・5限)しました。

この科目の目的は、大学生としての教養を身につけるスタートラインに立つことであり、すべての学生が学部・学科の垣根を越えたグループで、自ら主体的に知識を獲得し、仲間との対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得することです。

この科目では、「大人の教養」日本と日本人」「宗教」「宇宙」「人類の旅路」「歴史」などをはじめ、今話題の「アドラー」「心理学」や国連に採択された「2030持続可能な開発目標(SDGs)」などについて、入門書となる書籍をABDアクティブブック・ダイアログ読書法などを用いて読み込み、それぞれの得意・不得意分野についてチームメンバー同士で助け合いながら協働学修を進めていきます。それを要約して発表するワークなどを通して体験的に学修を深めます。

先輩である学生スタッフが重要な役割を担っています！



参加した学生たちは、初めは書籍の内容を要約して発表することに苦戦していましたが、次第に慣れてきた様子で、後半には堂々とプレゼンテーションをしている姿が見られました。

学びのスイッチオン！主体的に学ぶ姿勢を育みます



本学では、「いま、摂大の教育(学び)が大きく変わる」のスローガンのもと、学生有志(ラーニングサポーター)と協働して大胆なオンリーワンの教育改革を実行しています。急速な変化を続ける社会の中で、学生たちがそれに対応し、たくましく生きていくためには何が必要か。それらを考えながら今後もさらなる教育改革を進めていきます。

**調印式終了後の
記念撮影**

左から織戸支社長、
亀岡副会頭、伏見市長、
八木学長、友田学長、
川添学長、西村学長



**「枚方産学公連携
プラットフォームに
関する協定」
調印式**

8月3日、北大阪商工会議所（大阪府枚方市）で、枚方市における高等教育および地域活性化を目的とした大学、枚方市、産業界との「枚方産学公連携プラットフォームに関する協定」の調印式を行いました。

この協定は、同市内の私立理系4大学が主体となり協議を進める中で、枚方市および北大阪商工会議所、資生堂ジャパン(株)に協力を要請して実現したもので、今年度は本学が代表校を務めます。

調印式には本学八木紀一郎学長をはじめ、西村泰志大阪工業大学学長、川添義彬大阪歯科大学学長、友田幸一関西医科大学学長、伏見隆枚方市長、亀岡育男北大阪商工会議所副会頭、織戸誠一資生堂ジャパン(株)近畿支社長が出席しました。八木学長は「枚方市は医科、歯科、薬学、看護学に加え、情報学を設置する大学が所在し、社会資源が集積している都市です。大学・行政・産業界が手を取り合って高等教育の活性化と地域発展を実現させ、『教育と研究のまち』にふさわしいまちづくりを目指していきたい」と抱負を語りました。

今後は高大接続事業として4大学合同入試説明会や中高生大学体験事業、未病・予防対策事業、防災施策の強化・充実などを展開するとともに、共同研究などにも着手する予定です。

国際交流

海外語学研修・文化体験研修

国際交流センターが主催する、夏の海外語学研修・文化体験研修に27人の学生が参加しました。8月から9月にかけて、それぞれ2〜3週間の日程で、カナダ、韓国、タイ、台湾、マレーシアの5コースで海外研修を経験しました。このうち、カナダでは、バンクーバーで17日間のホームステイをしながら、昼は語学学校に通う英語漬けのコースで、学生たちは出発日までの間、英語の強化授業を実施し、現地での研修効果をより高めていきました。韓国、台湾、タイでは、語学研修はもちろんのこと、現地での文化体験や協定校との学生の交流なども行い、派遣先の国々のより深い理解を得ることができました。

今年度新設のマレーシア研修では、多文化共生をテーマに、現地学生との交流・企業訪問、村でのホームステイ等を体験しました。多文化社会のマレーシアにおいて、学生たちは異文化について、そして現地学生との交流を通して、英語の重要性を肌で実感し、学びました。

国際交流センターが企画する海外語学研修・文化体験研修は、これまでで得た経験や成果をもとに、常に現地情報や協定大学との調整を経て改良しています。10月の「摂大祭」では、多数の保護者の方々や一般の学生を前に、それぞれの成果を発表する成果報告会を開催します。

**海外での学びについての相談に
お応えしています**

国際交流センターでは、海外派遣を企画・実施しています。

今回は2019年春の海外派遣を募集予定です。英語・中国語の習得を中心とした各種コースを準備しています。

これに限らず、海外で学ぶことに関していろいろな相談に応じていますので、興味のある方はぜひ、気軽に国際交流センターにお越しください。

短期の派遣プログラムとは別に、本学の協定校である台湾・南台科技大学で2人の学生が9月から1年間の交換留学生として長期海外留学に挑戦します。これまでに参加した学生は、外国語の習得や文化交流において、忘れることのできない貴重な経験をしてきました。今回の2人もきっと大きな成果を持ち帰ってくることでしょ。

Environmental Protection

環境保全

**キャンパス・クリーン・サポーターが
打ち水大作戦を
実施しました!!**

キャンパス・クリーン・サポーター(CCS)・学内の環境改善に取り組む学生のボランティア団体が、寝屋川キャンパス内で雨水などを使って打ち水を行いました。この企画は、猛暑の名残が残る9月に、キャンパス内の温度を2〜3℃下げることが目的に実施しました。

グラウンドの横では恒例のゴーヤカーテンを育てました。今年は暑さのため生育が心配されましたが、打ち水をすることで、元氣よく天然カーテンに成長し涼しさを感ずることができました。

雨水槽から
打ち水用の雨水を
確保



本番に向けて
どれぐらい
温度が下がるか
検証



学生生活

新入生

ふれあいキャンパスを
開催しました！

新入生対象のふれあいキャンパスを実施しました。今年も宇治市総合野外活動センター「アクトパル宇治」で、4月21日・22日と5月12日・13日の2回、いずれも1泊2日の日程で行いました。このキャンパスは、新入生が入学後スムーズに学生生活を送れるようにアクティビティゲームやカラー作りを通じて、他者との信頼関係を深め、成熟した人間関係を構築できるきっかけとなるよう実施しています。

最後は
全員で
一緒に
盛り上が
りました！

このキャンパスは文化系クラブボランティア・スタッフの学生スタッフが準備から運営までほぼすべてを担当するという他大学では例の少ない特色ある本学の恒例行事です。学生スタッフたちは、6カ月もの時間を費やし準備をしてきました。最初は緊張気味であった新入生たちもさまざまな活動を通じて徐々に打ち解ける姿が見られました。キャンパス終了時には、「ふれあいキャンパス最高でした」「留学生の人も話すことができよかったです」「初めて会う人ばかりだったけれど、たくさんの人と交流できてよかったです」などの声が聞かれ、有意義なキャンパスとなりました。



第39回
フレッシュマンキャンプを
開催しました

体育会本部と文化会本部主催のフレッシュマンキャンプを開催しました。このキャンプは、フレッシュマンとなる新入部員を対象に、講演会や企画を通じて先輩学生と親睦を図り、クラブ員としての自覚を養うことを目的としています。

体育会は、6月2日・3日に兵庫県の八幡高原で実施。参加した46人のフレッシュマンは、佐藤正志学生部長、石井信輝体育会本部顧問による講演で、クラブ活動の意義を学びました。また、協力してカラーを作ったり、オリエンテーリングやバーベキューを楽しんだりしながら、クラブの枠を越えた交流ができました。文化会は、6月23日・24日に岡山県的美観地区と香川県の塩江で実施しました。27人のフレッシュマンと9人の先輩学生が参加し、佐藤学生部長、久保貞也文化会本部顧問による講演で、クラブ活動を通じて得られることを学びました。



オリエンテーリングでは、鉢伏山に登り親睦を深めました

本部長の講演を受ける
フレッシュマンたち



運営に携わった文化会本部長の松岡健王さんも、「タテ(先輩・ヨコ(同期))の関係だけでなく「ナメ(他のクラブ員)」の関係を大切に

積極的に関わってほしい」と熱心に取り組んでいました。今回のフレッシュマンキャンプを通じて、楽しく有意義な時間を過ごし、互いに絆を深めて、将来について考えるよい機会となりました。

学園祭を開催します!!

学生が主催する年に一度のビッグイベント、「撰大祭(寝屋川キャンパス)」、「撰友祭(枚方キャンパス)」を開催します。アーティストライブや芸人ライブなどのステージ企画をはじめ、模擬店出展など地域の子どもから大人まで楽しめる企画が満載です！家族や友人の方と多数の来場をお待ちしています。(来場には公共交通機関をご利用ください)

第44回撰大祭

テーマ「JACKPOT」

10月6日(土)〜8日(月・祝)

in 寝屋川キャンパス



今回のテーマは「JACKPOT」。大当たりや大成功といった意味を持ちます。昨年度までと一味違った企画を予定し、来場者へ「今年の撰大祭は大当たりだ」と感じてもらえる学園祭を実施します。

第7回撰友祭

テーマ「Lucky Seven Festival」

10月7日(日)

in 枚方キャンパス



今回は撰友祭が7周年を迎えることから、「ラッキー7」幸運をもたらしてくれる数字の「7」をテーマに盛り込むことで、「撰友祭

に関わるすべての人に幸運が訪れてほしい」という願いを込めています。また、「医療系字部の特長を活かした学園祭にしよう」とイベントを企画しており、医療に対して驚きや新たな発見を提供する内容となっています。



特別講演会告知

撰大祭、撰友祭期間中のみご来場を待ちます

- 日時 10月7日(日)13:00~14:15
- 会場 寝屋川キャンパス552教室
- 講師 厚切りジェイソン氏(IT企業役員・お笑い芸人)
- テーマ

「WHY JAPANESE PEOPLE! なんでやりたいことをやらないの? ~掴み取るためには~(48のWHYに基づいて)」(予定)



図書館

情報検索システム

「医中誌Web」の利用説明会について

図書館校分館のある校方キャンパスは、薬学部と看護学部の学生が利用しています。2020年4月からは、農学部(設置構想中)が新たに加わる予定です。

分館では専門のデータベースなどについては、操作方法が複雑で分かりにくいものもあるため、必要に応じて、パソコン教室を利用した演習形式の利用説明会を開催しています。今年度は5月に看護学部で活用している「医中誌Web」の利用説明会を開催しました。

「医中誌Web」とは、国内医学論文情報の情報検索システムで、医学・歯学・薬学・看護学などの国内定期刊行物約7000誌から収録した約1200万件の論文情報を検索できます。現在、全国の医学・歯学・看護学系大学のほぼ100%で導入されている実績ある医学論文データベースです。



今回は、学部生(3年次)と大学院生(1年次)に対して利用説明会をそれぞれ開催しました。学部生の説明会には約100人の学生が集まり、図書館スタッフが基本的な使い方から始まり、ポイントを絞った応用テクニックまでを、実際の検索事例をもとに解説しました。参加した学生は、図書館スタッフが説明する内容を真剣に聴き、演習では実際に自

分が操作して論文の検索をするなど、より具体的な操作方法を学べる有意義な時間となりました。

今後にも必要に応じて利用説明会を開催していきます。



「就活」の状況

「内定率は今年度も「高水準」に」

今年度の就職活動、いわゆる「就活」は、2月に本格的に始まりました。日本経済団体連合会の指針では3月広報解禁、6月選考開始とされていますが、非加入企業



や外資系企業など、多くの企業はこれにかかわらず募集活動を進めているのが実状です。加えて景気回復や早期の人材獲得の流れに後押しされた企業も増え、2月に急増した1dayインターンシップへの参加が事実上の就活の説明会開始となったようです。この結果、学生が内々定を得る時期もさらに早期化しており、9月1日現在、本学の内定率は74.6%。文系は70.2%、理系は81.1%で、昨年度同時点比較では2.6%ポイント高くなっています。

夏休み中も企業の募集・選考活動は続け

られ、公務員や他大学大学院受験者は秋以降に選考結果が出ることから、昨年度と同様に11月頃には80%を超える学生が進路を決定すると予想されます。



就活 校内合同企業説明会



未内定学生の支援は？

「個別面談と行事でサポート強化」

就職部では、さまざまな事情から進路未内定になっている学生についても支援を続けていきますので、ご安心ください。ただし、時期的なことを考えると、就職を希望される場合は早々に相談いただきたいというのが就職部の願いです。個別面談と並行して、次のとおり学内の行事も予定しており、学生自身の「就活」でのベストマッチングを図ります。

個別選考会・説明会 / 7月以降

企業単独の学内説明会実施中

※1次選考を兼ねる企業もあり。

就活面談会 / 10月以降

企業と学生の立ち会い面談会

※文系学生を中心に寝屋川キャンパスで

実施予定。

個別面談 / 随時

就職部にて実施中

履歴書・エントリーシートの作成 求人企業の紹介などごんなことでも相談を。

模擬面接 / 随時

就職部にて実施中。予約制。

就活の目的は、卒業後の社会人としての「本番」に備えることです。卒業・修了見込みの皆さんには、就活を「働き始める準備をする期間」と捉え、「自分がすべきこと」を認識して、卒業研究を中心に学生生活の総仕上げにも全力で取り組んでほしいところです。

また、来年度以降の就活生の皆さんには、在学中にしっかりと将来を考えて、まずは大学での学び、友との語り、課外活動などを通して充実した学生生活を過ごされることをお願いたします。

そのことが将来の望ましい進路選択につながっていきます。今後就職部ではこれをサポートしていきます。





法学部

初年次教育の取り組み

1年次必修の「法学基礎演習」は、大学で学んでいく上で必要な基礎教育を、共通テキストに沿って、個々のゼミ担当教員が進めていきますが、いくつかのテーマを学年全体や複数ゼミのグループごとに合同で行い、さまざまな実学教育を取り入れていきます。

第2週の合同授業は、①研究倫理、②環境、③就職の3つのテーマで実施。河原匡見学科長がレポートを書く際の「盗用（コピーアンドペースト）」禁止など研究倫理を、小山昇学部長は学内で使用される1日の電気代を例示して節電・省エネ意識を高める環境マインドについて話しました。田中康博就職部長は「将来やりたいこと、自分ができること、やるべきことを今のうちから見つめ直し、それを他人に説明できるようにするために、普段の授業での学習態度が大切」とキャリアデザインの考え方を説き、翌週から開始される図書館・就職部見学に向けて、「気軽に就職部に相談に立ち寄りてほしい」と呼び掛けました。

第4週は、民法担当の城内明准教授が消費者教育を行い、ネットなどを通じてトラブルに巻き込まれないよう、またその対処方法の

要点を強調しました。

第7週は、神垣清水客員教授(日比谷総合法律事務所弁護士)が「社会人としての法律的素養〜新社会人の観点から〜」と題し講演。アメフト事件など最新の話題を盛り込みながら、社会問題や時事問題を法律的側面から捉えることの重要性のほか、社会人に必要な「報・連・相」(報告・連絡・相談)の徹底や、時間と約束の厳守などビジネスマナーなどについて語りました。



神垣客員教授
特別講演
(5月31日)

自校史講演会を開催

第10週は、常翔歴史館の益山新樹館長(大阪工業大学応用化学科教授)を招き、「自校史に関する講演会」を開催しました。益山館長は、学園の前身・関西工学専修学校の創設が「大大阪」の発展と密接に関わっていることや、「摂南の名称」が生まれた経緯を解説し、「摂大生としての誇り」を持ち、先人たちが築いてきた伝統と建学の精神を誇りに感じてほしい」とエールを送りました。

9月からは、恒例の学習支援センター見学(SPI体験授業)や、大阪地方裁判所見学などを実施します。



自校史教育(6月21日)



常翔歴史館見学(6月28日)

外国語学部



大阪国際空港 職場見学会

3月1日に実施した「大阪国際空港 職場見学会」(企画・指導: ANA総合研究所)に1年次の学部生21人が参加しました。安全で快適な空の旅を可能にする業務や連携について、稼働中の空港で学び、現場で働く卒業生からも話を聞きました。



空港で働く先輩と共に

浪花の大ひなまつり

3月4日に「浪花の大ひなまつり」(本学・大阪くらしの今昔館主催)の講演会を、冷泉為人氏(冷泉家25代当主・京都美術工芸大学長)を講師に迎えて大阪くらしの今昔館のホールで開催しました。



新入生歓迎イベント

「新入生歓迎イベント」を開催しました。英語専攻では5月7日に英語だけで楽しく人間関係を構築する「English Party」を、中国語専攻では5月12日に中華街のある地、神戸で見学会を開催しました。インドネシア・マレー語専攻では5月29日に「インドネシアと



神戸見学会

マレーシアをよりよく知るための集まり」を、スペイン語専攻では6月5日に先輩と後輩の交流会を実施し、現地に滞在した先輩たちが、新入生に最新状況を話しました。



留学先の話を先輩から聴く

帰国者報告会

6月5日と12日に行った「帰国者報告会」に、留学を終えて帰国した学生のうち48人が参加。2日間にわたって、世界各国の協定校での留学体験を報告しました。



トビタテ! 留学 JAPAN 日本代表プログラム

文部科学省による「トビタテ! 留学 JAPAN 日本代表プログラム」に、本学から3人目として合格した近江聡太さん(4年次)が、5月にアメリカに向けて出発しました。すでに世界レベルのブレイクダンサーとしてたびたび海外遠征をしている近江さんですが、アメリカ留学で英語にもダンスにも磨きをかけます。



「トビタテ!」の先輩から話を聞く近江さん(左)

スペインのボードゲーム

留学帰国者から12の協定校について報告



経済学部

撰南経済ゲストレクチャーを講義
ードイツ総領事やEU公使、
企業トップなどの
多彩なゲストを招くー

実地に近い教育を行うという経済学部
コンセプトを具現化した授業の一つ
「撰南経済ゲストレクチャー」は社会の
各方面で活躍されている方々をゲスト
講師として迎え、後藤和子教授のガイド
のもと、経済の現実や課題などに触れる
機会として開講しています。

今回は7人のゲストを招いて、4月から
6月にかけて豊富な経験と具体的な素材に
基づいて「国際」「地域」「観光経済」のトピック
に関連したテーマで講演いただきました。

ゲストスピーカー

ドイツ連邦共和国総領事 駐日欧州連合
代表部公使、京都国立博物館副館長、
読売新聞大阪本社広報宣伝部長 大阪市
北区長 千島土地(株)取締役社長 クラブ
ツーリズム地域交流・京の旅デザイン
センター顧問



ドイツ総領事
ヴェルナー・ケーラー氏

EU公使

上海研修



イタリア研修

地域経済、観光経済、国際経済の
コースに応じた実践演習を講義
ーローカルとグローバルの
視点で学ぶー

経済学部では、各ゼミにおいて積極的に
フィールドワークを行っています。さらに
各コースの学びの領域に応じた実践演習科目
(2・3年次対象)を開講し、専門領域の知識を
深めています。具体的には、企業や自治体で
のヒアリング調査や長期インターンシップ、
海外研修などを通じて、経済活動の
動きを体感しながら実践力を磨きま
す。実習終了後は、実践演習合同発表表
会を実施し、その成果を検証します。

実習内容等

国際経済		観光経済		地域経済				海外	実習期間
海外	国内	国内	国内	国内	国内	国内			
グローバル企業体感プログラム in 上海 (企業訪問、中国大学生との異文化理解と フィールドワーク等を行う)	企業自治体(校)の ヒアリング調査(校方) 地域における観光経済の 実態を学ぶ	観光施設でのインターンシップ 観光産業と地域の関わりを学ぶ (藤田観光(株)等と連携)	自治体等主催のプログラムに参加 東北・釜石ひととき自然学校 広島県尾道市・空き家再生	寝屋川市でソーシャル・ビジネスを 考える (ベンチャービジネス・コンテストへの 応募を目指す)	中小企業と提携し、商品プランの 企画提案を行う (大阪の照明器具メーカーと提携)	和歌山県日高郡由良町でのグリーン ブル・ツーリズム体験 (由良町と連携)	イタリア海外研修 協定校 IULM 大学での講義 ミラノ近郊での食・ファッション・アート等 関連産業の視察	2月 (1週間)	8月21日~ 8月27日 (7日間)
8月21日~ 8月27日 (7日間)	8月 (5日間)	8月5日~ 9月2日 (実働20日間)	8月~9月 (10日間)	6月~7月 (5日間)	5月~8月 (5日間)	10月 (3日間)			

経営学部

ベトナム・ハノイでの海外研修

2月27日~3月3日の5日間、佐井英子
教授、西之坊穂准教授の引率のもと、両ゼミ
の合計12人の学生が参加しました。



ゼミ生たちは本研修で大きく2つの経験
をしました。一つ目は、(株)フジキン協力のも
と、同社のベトナム工場
2カ所を訪問しまし
た。ここでは、ベトナム
のハノイ進出の経緯、
ベトナム人と日本人の
違い、工業団地の現状
などを学習しました。
特に、本学の卒業生で
もあるバクニン工場長
からは、後輩たちのため
に「正しい情報を常に入手し、それについて
考える大切さ」や「行動することの大切さ」
について聞きました。

二つ目は、タインジャン・コンコン語学
学校で日本語を学ぶベトナム人学生88人と
の国際交流です。全体で自己紹介を行い日本
の流行歌を歌うなど、緊張を解くアイス
ブレイクをした後、4つの教室に分かれて
ゲームをしたり、将来の
夢を日本語で語り合っ
たりしました。また、ベト
ナムの旧正月(テト)の
すぐ後だったため、語学
学校の屋上で正月料理を
囲んだ職員の方との昼食
会がありました。夜はベト
ナム料理店でベトナム人



学生の皆さんたちとの会食の開催を通して、
楽しいひとときを一緒に過ごしていました。

サイバー犯罪から
地域社会を守りたい
ー学生ボランティアチームの
活動ー



企業が保有する顧客情報や技術情報など
を狙ったサイバー攻撃や、一般消費者をター
ゲットとして個人情報や金銭の窃取などを
行うサイバー犯罪の被害が急増しています。
これらの被害から地域社会を守ろうと経営
情報学科の学生有志らが、2015年4月
「サイバー防犯ボランティアチーム」を結成
しました。これまで北摂エリアの中小高校
約30校を訪問し、児童・生徒とその保護者
(約1500人)に対してスマートフォンと
インターネットの利用に潜む危険と安全利用
を学ぶワークショップを実施してきました。
2月3日には、大阪府警察が主催する「サイ
バーセキュリティフェス2018」に招かれ、
同警察生活本部長より感謝状が授与され
ました。

ボランティアチームを支援するのは大阪
府警のサイバー犯罪対策アドバイザーも
務める本学経営情報学科の久保貞也准教授
と針尾大嗣准教授。両教員のもとでメンバ
ーたちは、サイバー犯罪の手法や防衛対策の
ほか、ワークショップに必要な教材の開発を
通じて、プレゼンテーションスキルを学ん
でいます。今後は、このサイバー防犯ボラン
ティアの活動をよ
り広く地域に展開
していくために他
大学や関係機関と
の連携を図っていく
予定です。



理工学部

大学院博士前期課程
生命科学専攻の
「中間報告会」を開催
―活気あふれる研究討論―
生命科学科



博士前期課程生命科学専攻では、4月12日、大学院2年次の学生10人が研究の進捗状況を発表する中間報告会を開催しました。博士前期課程進学から約1年間経過した時点での発表であり、研究構想や展望、すでに得られた研究成果などについて発表しました。研究内容は、斬新な発想や独創的なアイデアに基づいた内容で、一方、解析は最新かつ堅実な手法によって詳細に行われていました。しっかりとした理論的裏付けや学問的意義のもとに、ユニークな実験材料や技術による研究が展開されている点にも注目が集まりました。当日は大学院生のほか、教員や生命科学科の学部生が集まり、活発な質疑応答を展開していました。

大学院生らの日々の努力や若い情熱が伝わってくる研究報告となりました。また、各人の成長を感じさせるとともに、聴講者を魅了していました。博士前期課程修了までに、さらなる研究の進展や成果が期待されます。

地域資源のフィールド調査と
社会への発信
―香里園・八木邸プロジェクト―
建築学科

建築学科では2015年から「香里園・八木邸」の実測調査を行ってきました。文化的価値が認められる八木邸は、近代建築家・藤井厚二の設計によるもので、寝屋川市にとっても阪神間モダニズムを物語る貴重な「地域資源」です。地域に眠る建築資源を後世に残すべく、3・4年次の学部生と大学院生が四季を通して計55回にわたる実測調査を行い、実測図集の編集、25分の1スケールの詳細模型や映像の製作を行うなど、一定の成果物にまとめあげました。独立して活躍する学科卒業生の参画や指導もあり、学生たちにとつて貴重な体験となりました。地域に残る建築レガシーへの関心が高まるなか、注目を集める竹中大道具館での「聴竹居展」(2018年5月〜7月)への出展要請もあり、学生たちの取り組みを広く発信することとなりました。建築学科では、「学び」がダイレクトに「社会の課題」につながることの重要性和面白さを今後大切にしていきます。



竹中大工道具館
展覧会会場、
設営を終えて



香里園・八木邸
詳細模型

本学を会場に
「日本機械学会」を
開催！
機械工学科

学生による
ポスター発表



3月10日・12日・13日に「第93期日本機械学会関西支部定時総会講演会・関西学生会卒業研究発表講演会」が本学を会場に開催されました。今回は本学理工学部機械工学科が幹事校となり、学生とともに学科を上げて運営に尽力しました。本大会では特別講演3件、基調講演3件、研究討論セッション193件、メカポセッション学生研究発表セッション63件、卒業研究発表会367件の合計629件の発表がありました。

13日の特別講演では本学経済学部長の久保廣正教授による講演に加え、さまざまなセッションで本学学生20人が発表を行いました。本大会を盛況のうちに終えることができたのは、今回、機械工学科の約60人の学生が、率先して運営に参加した功績が大きく、また、参加した学生にとつても、普段とは異なるアカデミックな雰囲気の中で貴重な経験を得る有意義な機会となりました。



本学学生が講演会運営に貢献

電気3学会関西支部
「准員および学生員のための講演会」
を開催
電気電子工学科



熱心に聴講する学生たち

昨年12月20日、電気電子工学科では原善一郎氏(三菱電機株)元主席技師長を迎え、「大型映像表示装置の技術開発と電気系学生へのメッセージ」と題した講演会を開催しました。原氏は、オーロラビジョンと呼ばれる大型ディスプレイの開発経験をもとに、映像表示の原理、オーロラビジョン誕生の背景、開発で得た教訓などを分かりやすく解説。新しい話題として、オーロラビジョンがIEEEマイルストーン(※)に登録決定したこと、また、同社が開発した日本科学未来館(東京・お台場)に常設展示されたジオコスモス(有機ELパネル配列式球体ディスプレイ)の紹介も行いました。さらに、自身のラガーマンとしての体験から、仲間づくりの大切さについてもアドバイスがありました。

学生にとって、技術と仲間づくりへの関心を高める貴重な機会となりました。

※電気技術分野における「ノーベル賞+世界遺産」ともいわれる賞。本講演後の3月に贈呈式が行われました。

薬学部

外部講師を招いて キャリア教育を実施

医療現場の現状について学生の理解と知識を深めるため、薬学部では、次の授業において現場で活躍する医師や薬剤師などから外部講師として招き、特別講演を実施しました。

1年次開講科目「薬剤師になるために」では、「陣痛促進剤による被害を考える会」の勝村久司氏から陣痛促進剤による被害、病院や薬局での薬剤師の支援、薬物乱用防止、薬害エイズ、スポーツファーマシストとアンチ・ドーピング活動、緩和ケア、在宅・地域医療について講演がありました。



(陣痛促進剤による被害を考える会)による「薬剤師になるために」(1年次)講演の様相

2年次開講科目「キャリア形成」では、医師であり薬局を経営する狭間研至氏から医師が薬剤師に期待すること、薬局・ドラッグストアにおける薬剤師の役割と今後の展望、保険薬局・病院・行政機関で活躍する薬剤師のキャリアパスについて講演。

5年次開講科目「アドバンスト臨床薬学」では、関西医科大学の池田広記氏のほか複数の医師によるリレー形式で肝炎治療ガイドライン、呼吸器疾患の薬物療法、薬物治療に果たす薬剤師の役割、TDM(治療薬物モニタリング)の基礎とPK-IPD(薬物動態学と薬理学)理論の応用、深在性真菌症とその治療薬、薬剤師による臨床研究の進め

方、最先端のがん治療などについて、最新医療の現状と今後の展望について講演いただきました。

これらを受講し、常に社会に目を向け、生涯にわたって医療を通して社会に貢献できる人材となるために必要な心構えを身につけていきます。

受賞者続出! 学会発表で頑張る学生たち

薬学部では、「高い倫理観、心豊かな人間性、実践的能力を備え、わが国の医療の進化、健康・福祉の増進、生活環境の保全に貢献する薬剤師を養成すること」を人材養成の目標としています。その目標を達成するため、学生たちは授業や実習で得た知識や技能を基盤に、問題解決力の向上に努め、卒業研究を展開しています。その成果は、各種学会での受賞という形で実を結んでいます。

学会賞受賞者一覧

●日本薬学会第138年会「学生優秀発表賞」受賞
(2018年3月)

荒井雄樹さん(6年次)
落合千波さん(6年次)
才本麻矢さん(6年次)

●日本薬剤学会第33年会
「日本薬剤学会」

永井財団学部学生七つ星薬剤師奨励賞「受賞」
(2018年5月~6月)
森本俊さん(6年次)

●第107回日本病理学会総会

「学部学生ポスター優秀賞」受賞
(2018年6月)
大嶋成奈優さん(6年次)
西村浩平さん(6年次)
山際高史さん(6年次)

●第3回日本薬学教育学会大会

「学生優秀発表賞」受賞
(2018年9月)
近藤真奈美さん(6年次)



看護学部

1年次対象の 連携4病院の看護師による 特別講演を実施

看護学部では、専門職としての意識の醸成人格的な成長を培うことを目的として1年次を対象に「キャリア入門」を開講しています。その一環として、7月に、現場で活躍する看護師を外部講師として招き、特別講演を実施しました。講師には卒業生も含まれており、職場で着用している白衣で登壇、普段ポケットに携帯している物品について説明がありました。白衣のポケットの中には、医療用のはさみやテープ、タイマー付きの電卓、メモなど数多くの物品が入っており、学生はその量の多さに驚いていました。

また、手術室の看護師からは医療用手袋の装着方法の説明があり、実際に体験しました。参加した学生からは、「看護師になるために学生時代は何をするべきかが分かった」「将来どのような看護師になりたいかを深く考えることができた」などの感想が聞かれました。学生は、これから看護学の専門科目を学んでいきます。

外部講師として講演した卒業生のように、地域で活躍できる看護師を目指します。

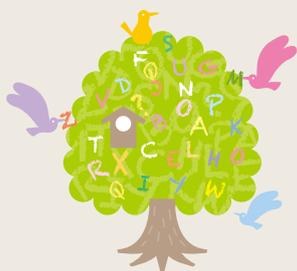


毎週月曜日は ランチタイム・イングリッシュ

看護学部では薬学部とともにランチタイム・イングリッシュを週に2回開催し、毎月曜日の昼休みには、7号館1階フロアのテーブルにネイティブスピーカーの英語講師を招いています。昼食をとりながら、誰でも気軽に英語を聞いたり、話したりすることができます。授業や実習に忙しい看護学部の学生ですが、日常の身近なところで、本物の英語に触れながら、英語での会話を磨いています。

最初は恥ずかしかったり、緊張して二の足を踏んだりしていても、気さくに声をかけてくるネイティブの講師との会話にしたいに慣れ親しみ、それとともに英語での会話もはずむようになりそうです。

毎週のランチタイム・イングリッシュの小さな積み重ねにより英語の苦手意識の克服が期待されており、看護師として、社会人として、将来の可能性を広げていく機会となっております。



情報教育 支援

e-Learning説明会を 開催しました

(寝屋川・枚方キャンパス)

4月23日、24日に寝屋川キャンパス、4月16日、27日に枚方キャンパスで、e-Learning英語教材「ATR CALL」および「リンガポルタ」の説明会を開催しました。両キャンパスで約320人の学生が参加し、システムに関する操作説明を受けた後、英語の課題に取り組みました。両システムとも学内のCALL教室や情報処理(演習)室のパソコンからだけでなく、学外からの利用も可能となっています。



CALL自習室をオープンしました

(寝屋川キャンパス/10号館6階)

パソコンを用いた外国語自習スペースとして、CALL自習室をオープンしました。15台のパソコンにヘッドセットを取り付け、e-Learning英語教材であるATR CALLを用いての学習が行える環境を整備しました。このほか、Webカメラを利用したSkypeによるビデオ通話や、ノートパソコンを持ち込んで自習することも可能です。グループワークや、仲間と相談しながら課題を進めたいときなどにも活用することができます。



情報メディアセンター

教員対象のMoodle研修会を開催しました

(寝屋川キャンパス)

アクティブ・ラーニング研究会との共催で、教員を対象としたMoodleの研修会を8月1日、寝屋川キャンパスで開催しました。本研修会は1月28日にも実施しており、両日で延べ約100人の教員が参加しました。研修会では実機を用いてMoodleの基本から応用までとその利用方法を体験するとともに、実際にMoodleを授業で活用している教員の事例紹介や意見交換を行いました。教員自らがICTを活用したティーチングスキルを高めることで、学生の能動的な学びの促進を支援しています。



開室時間
(授業期間中)
月～金
9:00～18:10



本学展示ブースの様子



研究 支援

イノベーション・ジャパン2018
～大学見本市&ビジネスマッチング～
研究支援・社会連携センターでは、産学連携を強力に推進するための産学マッチングの場として、大学で創出した研究成果の社会還元を促進し、産学連携への端緒となることを目的とした各種イベントに積極的に参加しています。
イノベーション・ジャパンはJST(国立研究開発法人科学技術振興機構)が主催する国内最大規模の産学マッチングの場であり、例年、東京ビッグサイト(東京・有明)において開かれます。今年度は、8月30日・31日の2日間にわたり開催され、本学から4件のブース展示を行いました。各ブースには多くの企業関係者や大学・官庁関係者などが訪れ、展示内容について熱心に見学する姿が見られ、活発な質疑応答など大変盛況のうちに幕を閉じました。展示内容はいずれも大好評を得、新たな共同研究の提案等も多数生じています。今後も多くの研究者に研究成果発表の場を提供できるよう、より一層の支援を行ってまいります。

出典名・発表者・概要

水/クロロフィル系バイオ燃料電池システム
搭載環境調和型建築デザイン
住環境デザイナー 川上比奈子教授
(共同研究者・生命科学科 松尾康光教授)
(水素ガスを直接導入しない)光合成によるプロトン生成を利用したバイオ燃料電池についての展示を行うとともに、建築空間との融合例を紹介。具体的には、廃棄植物から抽出したクロロフィルにより、エネルギーが生成される様子とともに、これを導入する建築空間の模型を展示しました。さらに、展示パネルなどで、本技術により、クリーンで分散型かつリサイクル要素を含むエネルギー創製が可能であることも紹介しました。

流れの撮影画像から 物体に作用する力を直接計測する技術

機械工学科 植田芳昭准教授
流れの可視化撮影の方法(フウハフ)に始まり、その撮影画像から流れ場の速度を算出する方法(従来のPIV計測技術)、さらに本出展技術である「流れの撮影画像から、流体中の物体が流れから受ける抵抗・揚力・トルクを算出する技術」について概説し、単純な流れ場を例に、その有用性について紹介しました。

簡単・安価・均質な群れロボットによる 探索システム

電気電子工学科 片田喜章准教授
一台数千円、数億円というロボットシステムではなく、全体で100万～200万円程度を想定したシステムの構築技術の展示をはじめ、この提案システムを適用した屋内移動ロボットによるターゲット探索についても展示を行いました。

おふくろの味が食べたい！ 電気電子工学科 西恵理講師

電子天秤、光センサおよびPCより構成された計測システムを展示。電子天秤上の光センサを内蔵した台に載せた食材を使用すると、食材の種類、使用するタイミング、使用量が記録でき、レシピの作成が可能であることを実演展示しました。
また、レシピを出力すると、投入すべき食材がリアルタイムで指示される画面も表示しました。



オープンキャンパスでも活躍!

女子Café実施

女子高生向けイベントとして女子Caféとフォトスポットを企画。所属する学部以外の友人に学びの内容などを事前にヒアリングしたり、自然な会話の中で質問を引き出した的に答えられるよう努めるなど、メンバーにとって有意義な機会となりました。



SETSUNAN GIRLS PRESS

2014年の発足以来、女子高生に向けて、本学の学び、部活、キャンパスライフの魅力を女子目線で発信している

SETSUNAN GIRLS PRESS (SGP)

多彩な活動を通してメンバーたちが成長を果たすと同時に、「女子入学者比率の5年間連続上昇」という成果も生み出しています!

報プロジェクト

成果が表れています!

SGPメンバー一人ひとりにもうれしい成果!



女子Caféでは、高校生が話しやすいように接し、質問に的確に答える難しさを経験。また、大学への興味が高まり、他学部の授業を受けるきっかけにもなりました。

北 祐美子
経営情報学科 2年次



みんなの意見を反映し、さらにニーズに合ったものを作り出すという貴重な経験ができ、就活の際にも自信につながりました。

平田 理紗子
経営学科 4年次

SGPの活動を通して、さまざまな視点から物事が見られるようになり、意見も積極的に発信できるようになりました。

菊池 智子
経営情報学科 3年次



和気あいあいとした中で自然と積極性が高まります。自分も意見を出し、周りの意見も聞いてまとめる力が身につきました!

浅田 朋美
経営情報学科 3年次

大学祭も盛り上げました Ms.&Mr. UNIVERSITY of SETSUNAN COLLECTION (セツコレ) 協力

高校生も数多く来場する本学大学祭において、人気イベントの一つでもある摂南大のミス・ミスターのグランプリを決める「セツコレ」。ここでも告知や会場誘導などで協力しました。



女子学生の割合 (大学比較)



他大学のデータ元: 旺文社「大学の真の実力」

5期生が新メンバーにわり、
活動内容もますます充実！
現在進行中の活動



女子高生とつながる！
Instagramの開設

広報活動に欠かせないSNS活用の一環として、フェイスブック、ツイッターに続いて、今年7月にInstagramを開設。プロジェクトメンバー自らが、写真を通してそれぞれの活動や日常を発信しています。

SETSUNAN GIRLS PRESSの
Instagramを開設！
ぜひフォローしてください。

@setsunan_sgp

撰南大の魅力を伝える
広報誌の制作

キャンパスライフを紹介する広報誌の制作では、メンバーが企画からアイデアを出し合い形にしていきます。今年も寝屋川キャンパスへのアクセスターミナルとなる寝屋川市駅・茨木市駅・大日駅周辺を紹介するリーフレットを制作(9月28日発行)。女子高生をターゲットに読みやすく、魅力が伝わる企画やデザインに拘っています！



これまでの主な活動実績

- SGP特設サイトの開設
- 部活やサークルへの取材、受験生への応援メッセージ動画の制作
- 女子向け学食メニューの企画・開発
- 雑誌・non-no(集英社)とのコラボ企画の実施・特設サイト開設
専属モデルも参画した冊子の制作やイベント実施など
- フォトスポットの制作
- 日めくりカレンダーの制作

イベントなどで
着用している
オリジナルTシャツ。
ピンクはSGPの
テーマカラー。



自分たちのアイデアが形
になっていく広報誌制作はやり
がいがいっぱい。メンバーと
の仲も深まっています！

白田 葉菜
法律学科 1年次

SGPは企画ごとに参加メンバーが
主体的に取り組んでいます。私は部活
紹介動画でチームリーダーとして撮影
方法や日程調整などに力を注ぎました！

馬城 愛美
経済学科3年次

主体的な活動を応援しています！

学外の業者と調整を図るなどのサポートは行っていますが、あくまで主役はメンバーたち。初めは消極的だった学生も、自分の意見が言えるようになり、やがてみんなの意見を集約して一つの成果を導き出す力を身につけています！

入試部 喜井 奈津帆



ホームカミングディ

in 京セラドーム大阪

All摂南大学Dayを開催

9月2日、京セラドーム大阪(大阪市西区)で「All 摂南大学 Day」を開催しました。8回目を迎えた同イベントに、卒業生や在学生ら約1000人の摂南ファミリーが集い、本学協賛試合「オリックス・バファローズ対 埼玉西武ライオンズ」戦を楽しみました。

今年は、ホームカミングディとしての一体感をさらに高めようと、参加者全員に大学オリジナルのマフラータオルやスティックバルーンを配って応援を呼び掛け、会場の雰囲気を演出しました。



国歌斉唱/常翔学園中学・高校合唱部

読売テレビアナウンサー 林 マオさん

本学卒業生のご子女で、読売テレビアナウンサーの林マオさんが「SETSUNAN」と「10」の背番号のユニフォームで始球式に登板しました。テレビでもおなじみの明るい笑顔で球場の声援に手を振って応えたマオさん。素晴らしいピッチングを見せ、会場は大いに盛り上がりました。



「緊張しましたが、忘れられない記念の一日になりました」



自治体マスコットキャラクターショー
関係の深い地域との連携活動を紹介するため、協定を締結している自治体のマスコットキャラクターに出演していただきました。



マルシェ出展 農学部(設置構想中)をPR

2020年4月、枚方キャンパスに設置構想中の農学部と連携予定の「類農園」が、産地直産の“減農薬”や“農薬を使っていない”旬な青果を販売しました。



試合前のグラウンド内で摂南ファミリーがキャッチボールを楽しみました。

入試インフォメーション

2019年度入試日程表

入試区分	募集学部	試験日	出願期間	可否発表日
公募制 推薦入試	法学部	11月 3日(土)	10月 9日(火)～10月24日(水)	11月13日(火)
	外国語学部			
	経済学部			
	経営学部			
	理工学部 住環境デザイン学科のみ [文系型]			
	全学部	11月 4日(日)		
B日程	全学部	11月25日(日)	11月 1日(木)～11月17日(土)	12月 6日(木)
一般入試	全学部	1月22日(火)	1月 1日(火)～ 1月12日(土)	A日程 2月 6日(水)
		1月23日(水)		AC日程 2月21日(木)
	法学部	2月 9日(土)	1月 1日(火)～ 1月30日(水)	2月21日(木)
	外国語学部			
	経済学部			
	経営学部			
理工学部 住環境デザイン学科のみ [文系型]				
全学部	2月10日(日)			
後期日程	全学部	3月 5日(火)	2月 8日(金)～ 2月26日(火)	3月17日(日)
大学入試 センター試験 利用入試	全学部	本学個別 学力試験は 課しません	1月 1日(火)～ 1月12日(土)	2月21日(木)
			1月 1日(火)～ 1月30日(水)	
			2月 8日(金)～ 2月26日(火)	3月17日(日)

※AC・BC日程は「センター試験プラス方式」

学外試験会場

公募制 推薦入試	A日程	11月 3日(土)	大阪(堺)、京都、神戸、尼崎、奈良、和歌山、高松
	B日程	11月 4日(日)	大阪(堺)、京都、神戸、尼崎、姫路、奈良、和歌山、名古屋、岡山、広島、高松、福岡
一般入試	前期 A日程	1月22日(火)	大阪(天王寺)大阪(堺)、京都、神戸、尼崎、姫路、奈良、和歌山、金沢、名古屋、岡山、広島、米子、高松、福岡
		1月23日(水)	大阪(天王寺)、大阪(堺)、京都、神戸、奈良、和歌山、名古屋、岡山、広島、高松
	前期 B日程	2月 9日(土)	大阪(堺)、京都、神戸、奈良、高松
		2月10日(日)	大阪(天王寺)、大阪(堺)、京都、神戸、尼崎、奈良、和歌山、岡山、高松

特別 奨学金 制度

「一般入試前期A日程」「大学入試センター試験利用入試前期」の入試成績優秀者を「特別奨学生」として認定します。一般入試前期A日程は1年次の年間授業料と教育充実費の半額相当額を、大学入試センター試験利用入試前期は1年次の年間授業料と教育充実費の全額相当額を入学初年度に限り奨学金として給付します。

【お問い合わせ先】 入試部(寝屋川キャンパス) TEL:072-839-9104 <http://www.setsunan.ac.jp/nyushika/>

後援会長 挨拶



後援会 会長
神田 耕吉

保護者の皆さまには、日頃より摂南大学後援会の活動にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

昨年度に引き続き、後援会会長に選任されました。

後援会は、大学と家庭との連携を密にし、より良い教育環境の提供を目指し、5つの事業に取り組んでいます。中でも重点的に取り組んでおります教育懇談会については、ご子女の様子を担当の先生から直接聞くことのできる貴重な機会です。この機会にぜひとも出席いただき、日々の不安を解消いただくとともに、参加者同士の情報交換の場としても活用いただければと思います。就職状況についても大学の就職担当職員が相談を受けておりますので、ぜひご利用ください。

保護者の皆さまには、今後とも後援会活動の趣旨をご理解いただくとともに、各種行事への積極的なご参加をお願い申し上げます。

2018年度 事業計画

- [1] 大学と家庭との連携強化
キャンパスガイド・大学広報誌「さやけき」の送付 ほか
- [2] 教育懇談会の実施
春期・秋期の年2回開催
(それぞれ寝屋川・枚方両キャンパスで実施。秋は学外でも実施)
- [3] 教育に対する援助
研究発表・ゼミ旅行・資格試験への援助 ほか
- [4] 学生の課外活動に対する援助
課外活動・大学祭への援助 ほか
- [5] 就職活動に対する援助
保護者向け就職支援冊子作成援助・就カツセミナー開催費用援助 ほか

後援会総会を開催しました

2018年度後援会総会を5月26日、寝屋川キャンパスで開催しました。開催に先立ち、神田会長の挨拶の後、議長に河村彰則前副会長が選出されました。後援会会則変更の件、2018年度事業計画および予算の件について議案の審議が行われ、いずれも原案どおり承認されました。2018年度

の三役（左記参照）が選出されたほか、新たに9人の新役員候補者が承認され、計64人の新運営体制が整いました。

【2018年度 新三役】（※敬称略）

会 長	神田 耕吉(薬学部)
	十河 欣也(理工学部)
	平井 良治(経営学部)
副会長	山下 栄(経営学部)
	仲田 久美子(薬学部)
	加賀 久美子(法学部)
	伊瀬 徹(経済学部)
監 事	中見 江美子(看護学部)

春期教育懇談会を開催しました

家庭と大学をつなぐ連携の一つとして、教育懇談会では、教員との個別懇談等の機会を設けております。

2018年度春期教育懇談会を6月9日に開催しました。寝屋川・枚方両キャンパス合わせて612組829人の方に参加いただきました。一部ではございますが、参加された皆さまからのご意見・ご感想を掲載します。

毎年多くの保護者の皆さまに参加いただき、
さまざまな声をいただいています！

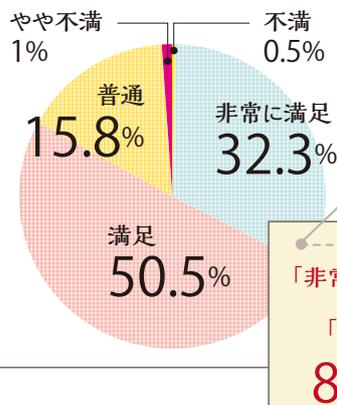
参加いただいた
皆さまからの声

- 他大学に通う保護者の方に聞くと、このような懇談会を実施している大学は少ないようです。特に個別懇談で担任の先生とお話できる機会が持てることは、とてもありがたいです。(理工学部)
- 先生方には個別懇談でもとても親切にきめ細かく指導していただき感謝しております。(外国語学部)
- 子どもが通う大学の見学も兼ねることができ、良かったです。

就職活動の方法や取り巻く環境も私の頃とは全然違うので、分かりやすく説明していただき、非常に参考になりました。(経営学部)

参加者個別懇談の内容について 2018年度春期教育懇談会アンケート結果

(有効回答数202件集計)



就職講演の様子

【2018年度 開催スケジュール】

日程	会場
10/ 6(土)	本学【寝屋川】
10/20(土)	本学【枚方】
10/13(土)	高松・広島
10/27(土)	福岡
11/10(土)	奈良
11/11(日)	福井・米子
11/17(土)	名張
11/18(日)	難波

秋期教育懇談会は、本学(寝屋川・枚方)会場に加えて、学外8会場で開催します。詳細については、8月に送付の案内状、または本学ホームページからご確認をお願いします。



個別懇談の様子(昨年度)

秋期教育懇談会のご案内

●毎回、大学生活の様子や成績等についてご相談でき、心強かったです。(薬学部)

●担当の先生とお話をする機会が持て、この懇談会には感謝しております。(看護学部)

家計が急変し、学費の支払いに困った場合は

奨学金・教育ローン・学費減免・アルバイト等のご案内

区分	名称	返済の要・不要
奨学金	①日本学生支援機構奨学金(JASSO)の緊急/応急採用	必要
	②貸与金額の増額(すでにJASSO奨学生の場合)	
	③地方公共団体・民間奨学団体の奨学金	
教育ローン	①国の教育ローン 日本政策金融公庫	必要
	②本学との提携ローン 学費サポートプラン(オリエントコーポレーション) 悠裕プラン(ジャックス)	
学費減免	学費減免制度(※給付制の学内奨学金を受給している者等、適用対象外となる場合があります)	不要
一時金	JASSO支援金(自然災害等により住居に被害を受けた場合)	不要

不慮の事故や災害等により家計が急変し、学業継続に支障が生じた場合の経済支援策をご案内します。

◎申請にあたっては、申請書をはじめ収入に関する書類等が必要です。
また、募集案内や説明会等、奨学金に関する情報はポータルサイトでお知らせしますので、情報を見落とさないよう留意してください。

アルバイトのご案内

パソコンや携帯電話からいつでもどこでも安心な求人情報が入手できるサービスを提供していますので、有効に活用してください。

◎利用にあたっては、(関)ナジックへのアルバイト登録が必要です。
登録希望の方は、本学のHP⇒学生生活⇒「学生マンション・アルバイトについて」から手続きしてください。

◀ 本学ホームページ 後援会サイト : <http://www.setsunan.ac.jp/family/kouenkai/education.html> ▶

2020年4月 農学部 開設 [設置 構想中]



人類の持続可能性への課題に挑戦!!



不可農はない。

農業就業者の高齢化や耕作放棄地の拡大、食料自給率の低下など、さまざまな課題を抱えている現代社会。一方で企業の農業参入、ロボット技術・ICT(情報通信技術)・AI(人工知能)を活用した新たな農業などイノベーションの兆しがみられ、食料・農業を取り巻く環境は大きく変化しています。こうした社会や時代のニーズに応えるべく、グローバル視点で食と農に関する知識・技能を持ち、課題解決に取り組める人材育成をめざし、2020年4月「農学部」を設置します。(2019年3月設置認可申請予定)

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

摂南大学「農学部」は、SDGsを推進します。



■SDGsとは?

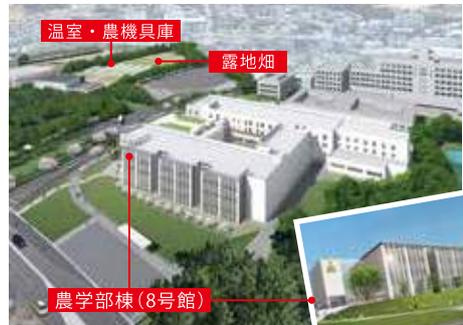
SDGsは、2030年までに、持続可能な未来社会の実現をめざす17の目標。摂南大学「農学部」は、農学を通して、より良い未来を拓く人材育成と研究・開発、社会実践に取り組みます。

農業生産学科

応用生物科学科

食品栄養学科 [管理栄養士 養成課程]

食農ビジネス学科



※農学部棟(8号館)完成予想イメージ

<http://www.setsunan.ac.jp/nogaku/>

さ や け き

「さやけき」とは

「清けき」と書き、明るい、清々しい、清く澄んでいるなどの意味を表します。大学歌に「学風さやけき 摂南の～」の詞があるとおり、本学の明るく、若さあふれる清々しいイメージを象徴する言葉です。



表紙の人

(左から)白田 菜菜さん、馬城 愛美さん、北 祐美子さん
女子学生による広報プロジェクト、SETSUNAN GIRLS PRESS (SGP) メンバーの3人です。広報誌制作やオープンキャンパスでの女子Café開催などを通して、本学の魅力を発信。入学者における女子比率アップに大いに貢献しています!(本誌P14・15でも紹介しています)